

当院採用の鎮咳薬一覧

	採用区分	分類	商品名	一般名	用法用量	効能・効果	投与制限 日数	備考	授乳婦
鎮咳薬	院内外	中枢性 麻薬性	コデインリン酸塩散10%「タケダ」	コデインリン酸塩水和物	1回20mg(散10%の場合は0.2g)、 1日60mg(散10%の場合は0.6g)を経口投与する。 但し、年齢、症状により適宜増減する。	各種呼吸器疾患における鎮咳・鎮静、 疼痛時における鎮痛、激しい下痢症状の改善	30日	痰が少なく強い咳を確実に止めたいと きに短期的に使用。	△
	院内外	中枢性 麻薬性	コデインリン酸塩錠20mg「タケダ」				30日		△
	院内外	中枢性 非麻薬性	アストミン錠10mg	ジメモルファンリン酸塩	成人（15才以上）には 1回1～2錠（ジメモルファンリン酸塩として 10～20mg）を1日3回経口投与する。 但し、年齢、症状により適宜増減する。	次の疾患に伴う鎮咳：上気道炎、肺炎、急性気管支炎、肺結核、珪肺及び珪肺結核、肺癌、慢性気管支炎	なし	耐糖能が変化するので糖尿病患者では注意が必要。	○
	院内外	中枢性 非麻薬性	アスベリン散10%（100mg/g）	チベジンヒベンズ酸塩（チベジンクエン酸塩相当量として換算する）	通常成人には、チベジンクエン酸塩相当量として気分がふさいで、咽喉、食道部に異物感があり、ときに動悸、めまい、嘔気などを伴う次の諸症：不安神経症、神経性胃炎、つわり、せき、しわがれ声、神経性食道狭窄症、不眠症 1日60～120mg、1日3回経口投与する。 但し、年齢、症状により適宜増減する。 小児：【1日量】 1歳未満5～20mg、 1歳以上3歳未満10～25mg、 3歳以上6歳未満15～40mgを3回に分割	次の疾患に伴う咳嗽及び喀痰喀出困難：感冒、上気道炎（咽喉頭炎、鼻カタル）、急性気管支炎、慢性気管支炎、肺炎、肺結核、気管支拡張症	なし	去痰作用を併せ持つ。	◎
	院内外	中枢性 非麻薬性	アスベリンシロップ0.5%				なし		◎
	院内外	中枢性 非麻薬性	メジコン錠15mg	デキストロメトルファン臭化水素酸塩水和物	1回15～30mg、1日1～4回経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。	①次の疾患に伴う咳嗽及び喀痰喀出困難：感冒、急性気管支炎、慢性気管支炎、気管支拡張症、肺炎、肺結核、上気道炎（咽喉頭炎、鼻カタル） ②気管支造影術及び気管支鏡検査時の咳嗽	なし	咳中枢を抑制する。空咳に有効。	◎
鎮咳去痰薬	院内外	中枢性 麻薬性	フスコデ配合錠	ジヒドロコデインリン酸塩、dl-メチルエフェドリン塩酸塩、クロルフェニラミンマレイン酸塩	通常、成人1日9錠（10ml）を3回に分割経口投与する。 なお、症状により適宜増減する。 ★12歳以上15歳未満：成人量の2/3	次の疾患に伴う咳嗽：急性気管支炎、慢性気管支炎、感冒・上気道炎、肺炎、肺結核	なし	重篤な呼吸抑制があらわれるおそれがあり、 12歳未満の小児には投与しないこと。 抗ヒスタミン成分による眠気に注意。	※
	院内外	中枢性 麻薬性	フスコデ配合シロップ				なし		※
	院内外		ツムラ（29）麦門冬湯エキス顆粒	麦門冬湯	通常、成人1日9.0gを2～3回に分割し、食前又は食間に経口投与する。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。	痰の切れにくい咳、気管支炎、気管支ぜんそく	なし	風邪症候群後の蔓延性咳嗽など、軽い乾性咳嗽に	－
漢方薬	院内外		ツムラ（19）小青竜湯エキス顆粒	小青竜湯	通常、成人1日9.0gを2～3回に分割し、食前又は食間に経口投与する。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。	次の疾患における水様の痰、水様鼻汁、鼻閉、くしゃみ、喘鳴、咳嗽、流涙：気管支炎、気管支喘息、鼻炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、感冒	なし	水様性の痰や鼻汁を伴う気管支炎、喘息、感冒の咳に	－
	院内外		ツムラ（16）半夏厚朴湯エキス顆粒	半夏厚朴湯	通常、成人1日7.5gを2～3回に分割し、食前又は食間に経口投与する。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。	気分がふさいで、咽喉、食道部に異物感があり、ときに動悸、めまい、嘔気などを伴う次の諸症：不安神経症、神経性胃炎、つわり、せき、しわがれ声、神経性食道狭窄症、不眠症	なし		－
	院外		ツムラ（96）柴朴湯エキス顆粒	柴朴湯	通常、成人1日7.5gを2～3回に分割し、食前又は食間に経口投与する。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。	気分がふさいで、咽喉、食道部に異物感があり、時に動悸、めまい、嘔気などを伴う次の諸症：小児ぜんそく、気管支ぜんそく、気管支炎、せき、不安神経症	なし		－

※参考文献
・母乳とくすりハンドブック 改訂3版
・今日の治療薬2018
・各医薬品添付文書

◎ … 安全(授乳婦で研究した結果、安全性が示されている。疫学情報はないが、乳児に有害事象を及ぼさないとされる薬剤)
○ … 危険性は少ない(授乳婦での研究は限定的だが、乳児へのリスクは最小限である。疫学情報はないが、リスクを証明する根拠がない薬剤)
△ … 注意(乳児に有害事象を及ぼす可能性があり注意が必要である。安全とされる薬剤への変更を考慮すべき薬剤)
× … 禁忌(薬剤の影響がある間は授乳を中止する必要がある。安全性を示す情報がなく、リスクが解明されるまで回避すべき薬剤)
※ … ジヒドロコデインリン酸塩については△。その他の成分についてはデータなし。
－ … 記載なし